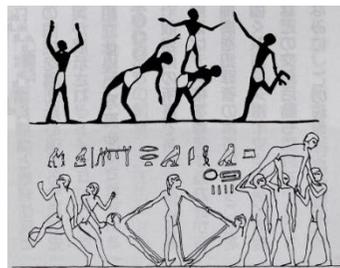


組立体操の歴史

古代エジプトの壁画に描かれた組立体操

組立体操は4000年以上の歴史があります。紀元前2000年も前の古代エジプトの壁画にその姿をみることができます。中世以降のヨーロッパの市民祭でも、若者たちが組立体操やダンスを行って人々を楽しませる風習があったといわれています。



日本の組立体操

日本では、奈良・平安時代の正倉院に収められた御物の一つである「弾弓」(弓)の弓身に描かれている。左側の図には、上半身裸の大柄の男の上に2人の男が乗り、さらにその上にもう2人の男を乗せた「4段タワー」の組立になっています。



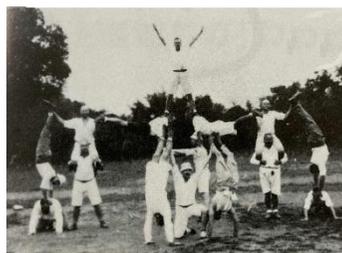
これは「散楽」と呼ばれるサーカス芸の一種で、奈良時代に中国から日本に伝来したと言われます。



ドイツ兵捕虜による組立体操

ドイツ人捕虜による組立体操

本格的な組立体操に取り組まれるようになった時期は定かではありません。しかし、大正初期の徳島県鳴門市で行われていた組立体操の記録が残っています。



第一次世界大戦(1914~18)で捕虜になったドイツ兵1000人が徳島・鳴門の板東俘虜収容所で過ごしました。収容所跡地に立てられた「鳴門市ドイツ館」には、ドイツ兵捕虜と地域住民との心温まる交流の様子が展示され、ドイツ兵が行った組立体操の写真も残されています。収容所の所長であった松江豊寿中佐は、捕虜を犯罪者のように扱うことを固く禁じ、スポーツや音楽、演劇などの文化活動も認めていました。ここで日本で初めてベートーヴェンの「交響曲第九番」が演奏されました。

大正～戦後

大正中期には神田のYMCAで初歩的なものが行われており、その後、日本体育会体操学校(日体大の前身)で本格的に取り組みられるようになります。特に、戦前の明治神宮国民体育大会(現在の国民体育大会)や、朝日新聞社の主催で行われた体操祭では組立体操がデモンストレーションとして披露され、大きな拍手をあげました。それを見た体育教師や実際に演示をした学生によって、組立体操全国の学校現場へ広まっていったと考えられます。

戦後も、国体と呼ばれる国民体育大会の開閉会式の集団演技で、必ずといってよほど組立体操が行われてきました。学校でも、組立体操は運動会(体育祭)の種目の一つとして残り、民舞や創作ダンスと並ぶ表現種目として行われてきました。

高層化・巨大化

運動会の定番種目になった組立体操ですが、2010年には10段のピラミッドが公開されました。「絆きずなの10段ピラミッド」として新聞にも取り上げられました。(朝日新聞、2010.10.22付)そして、ピラミッドやタワーの巨大化、高層化が進んで行くのです。



巨大ピラミッドの事故

しかし、2015年、大阪八尾市の中学校で起こった組立体操ピラミッド事故をきっかけに、組立体操に対する見方が変わります。社会の関心が一気に高まり、マスコミもその危険性を報じ始めました。「たった一日の運動会のために子どもを犠牲ぎせいにすることはやめよう」という声が国会にも届きます。組立体操がもつマイナスの体験から、厳しい批判が上がり、巨大なピラミッドや高層のタワーだけでなく、すべての組立体操そのものの廃止を求める声が上がります。大阪市教育局はピラミッドとタワーを禁止したり、組立体操そのものを廃止したりする市や町が出てきました。

組立体操は廃止で良いのか?(これは先生の意見)

先生はこれまで、高学年を持ったら組体操よりも民舞をやってきた方なので、組立体操への強い思い入れはありません。しかし、組体操を廃止しようと言う意見には、本当にそれで良いのかと思います。先生たちの中には、「ケガをしてとやかく言われるぐらいだったら、そんな危険な組立体操をわざわざやる必要はない。全てなくしてしまおう」と言う人もいます。しかし、それは、危険な組立体操をする先生達が悪いのであって、危険でない組体操もあるはずで、組立体操そのものが悪いわけではありません。それを追求せず、全て廃止なんて、大変乱暴な意見だと思うのです。組体操をしっかりやったこともない人が批判するのは、とんでもなくおかしいと思います。